

スポーツによるグローバル人材育成に関する研究（第1報）

— コスタリカ共和国における野球指導 —

A Study Regarding the Fostering of Global Human Resources through Sports (Report No.1): Baseball Coaching in the Republic of Costa Rica

宮崎 光次^{※1}

キーワード： 野球，コーチング，グローバル人材，JICA，国際協力，コスタリカ

要約

独立行政法人国際協力機構（通称 JICA，以下 JICA とする）と桜美林大学は，連携ボランティア派遣事業実施で合意し，2016 年から 2020 年の 5 年間，毎年 1 ヶ月程度，野球部員 10 ～ 15 名をコスタリカ共和国（以下コスタリカとする）に派遣し，野球の普及・振興を図るとともに，ボランティア経験を通じたグローバル人材育成及び国際協力分野における人材育成を図ることとなった。

この事業は，書類選考，現地視察をとしての案件形成，プレゼンテーション選考を経て，本学が選ばれたものであり，コスタリカ人選手への技術指導，ルール，マナーの指導，普及を目的とした野球教室の実施等を通して，同国の競技力向上，競技人口拡大，青少年の健全育成に寄与するものである。

派遣学生は，書類審査，面接試験により選考され，研修を受けた後，現地での活動を行う。この事業は，学生の異文化理解の促進，語学力の向上に貢献し，グローバル人材の育成に役立つ試みである。

1. はじめに

2015 年 6 月 9 日（火）JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業覚書署名式が，三谷高康学長，小川登志夫 JICA 青年海外協力隊事務局長，リリアン・ロドリゲス駐日コスタリカ大使館臨時代理大使ご出席のもと，本学にて行われた。（写真 1）

JICA ボランティア事業は，日本政府の ODA 予算により，JICA が実施する事業で，開発途上国の経済，社会の開発や復興を目的に，それぞれの国に必要な技術・知識・経験を有し，かつそれを活かしたいという意味を持つ市民を募集し，選考，訓練を経て派遣されるものである。

その中で，大学との連携によるボランティア派遣は，昨年度から本格的に開始されたも

※1 MIYAZAKI, Mitsuji 桜美林大学総合科学系

ので、大学から安定的なボランティア派遣が期待できること、一般公募では確保が難しい分野での活用が考えられることから、行われることとなった。

今回、本学は、日本政府の掲げる「Sport for Tomorrow」のもと、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、スポーツ振興による国際貢献に積極的に取り組みたいと考えたこと、及び、海外ボランティア経験を通じたグローバル人材育成及び国際協力分野における人材育成が図れると考えたことから、JICAと連携し、コスタリカに野球部員をボランティアとして派遣することになった。

本研究の目的は、JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業締結にあたっての経緯と、これまでの取り組みを報告するとともに、今後の展望を考察することである。



写真 1 JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業覚書署名式

(左から) 野球部・大森さん、宮崎光次スポーツ推進センター長／野球部部長（筆者）、三谷高康学長、リリアン・ロドリゲス駐日コスタリカ臨時代理大使、小川登志夫 JICA 青年海外協力隊事務局長、野球部・柳田さん

2. 本学の野球部

(1) 変遷と戦績

野球部は、1978年準硬式野球部として創部、全日本大学準硬式野球選手権大会出場18回（優勝1回、準優勝2回）、全日本大学選抜準硬式野球大会出場2回（準優勝2回）、関東地区大学・社会人準硬式野球王座決定戦出場10回（優勝4回、準優勝2回）などの戦績を残し、2007年第59回全日本大学準硬式野球選手権大会において優勝、大学日本一を達成した。

この優勝を機に、硬式野球への移行の機運が学内外で高まり、2009年首都大学野球連盟に加盟、春季より2部リーグに参戦した。同年秋に行われた新人戦（1、2年生のみが参加できる公式戦）では初出場初優勝の偉業を成し遂げている。その後も、加盟5年、10シーズンで、2部リーグ戦グループB優勝4回、2部リーグ戦優勝2回、1部2部入

替戦出場 2 回と着実に成果を上げた。

そして、6 年目の 2014 年春季リーグ戦より 1 部リーグ昇格を果たし、2 位の成績を残した。

その後も、2014 年秋季 1 部リーグ戦 4 位、2015 年春季 1 部リーグ戦 2 位、秋季 1 部リーグ戦 4 位、新人戦優勝と 1 部リーグ上位に定着、確実に戦績を伸ばしている。

(2) 部員と卒業生

近年の部員数は、2009 年度:78 名、2010 年度:105 名、2011 年度:119 名、2012 年度:147 名、2013 年度:152 名、2014 年度:163 名、2015 年度:189 名と増加の一途である。

また、卒業後も、硬式野球を続ける者が増えており、その一部は以下のとおりである。

【プロ野球（日本野球機構）】

川相 拓也（2012 年度健福卒） 東京読売ジャイアンツ（内野手：004）2015 年～

【プロ野球（BC リーグ）】

足立 尚也（2010 年度健福卒） 新潟アルビレックス（内野手：8）2011 年～

桑田 真樹（2014 年度 LA 卒） 新潟アルビレックス（外野手：3）2015 年～

望月 謙人（2012 年度健福卒） 富山サンダーバズ（内野手：60）2015 年～

上野 和彦（2012 年度 BM 卒） 新潟アルビレックス（投手）2013～2014 年

【社会人野球】

岩間 理樹（2012 年度 LA 卒） 西部ガス（投手：11）2013 年～

白井 綾（2012 年度 LA 卒） シティライト岡山（捕手：10）2013 年～

齋田 章吾（2012 年度健福卒） シティライト岡山（投手）2013～2014 年

【クラブチーム】

桑田 祥平（2009 年度国際卒） 警察庁（捕手）2010 年～

小笠原 大騎（2013 年度健福卒） YBC 柏（捕手：2）2014 年～

(3) 目的と理念、方針

野球部は、「野球を通して心身を鍛練し、有能かつ高い教養を備えた人物の育成をはかる」ことを目的とし、以下の理念、方針を掲げ活動している。

1. 学生の本分を全うする（文武不岐）
2. 社会人、野球部員としてのルール、マナーを堅持する
3. 自主的、計画的に物事にあたる

また、特別強化クラブに指定されており、本学の教育目標である「キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成する」こと、特別強化クラブのミッションの 1 つである「クラブ活動を通じて教養豊かな見識高い学生となることを目指す」ことを遂行している。

そのために、競技力の向上と共に、人間性の育成、学力の向上に力を入れ、社会に貢献

できる人材の養成を目指して活動している。

今回のボランティア活動は、野球部の目的、理念、方針に合致しており、まさに、「学而事人（がくじじじん）」（学びて人に仕える）を実践する絶好の機会である。部活動をはじめ、授業、大学生活でこれまでに学んだことを、是非、コスタリカの人々のために活かして欲しいと願っている。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本がスポーツ分野において国際貢献を行う必要性がこれまでも増して大きくなっており、その役割の一翼を担って欲しい。

3. JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業締結までの経緯

(1) JICA からの打診

2014年9月、JICA 関係者より、「JICA ボランティア（青年海外協力隊/シニア海外ボランティア）という活動があり、毎年、人材資源分野（体育、各種スポーツ等）で海外に人材を派遣している。しかし、野球は、チームスポーツであり、1人の指導者ではカバーしきれない点があり、大学生をチームとして派遣することを数年前からパイロットプランとして行ってきた。そして、昨年度から大学連携ボランティア派遣事業として、本格的に開始した。このプロジェクトに桜美林大学野球部は興味があるか。」との話があった。その概要は表1のとおりである。

野球部スタッフ（学生スタッフも含む）で検討し、本学の教育目標、特別強化クラブのミッション、野球部の目的と照らし合わせ、是非、チャレンジすべきとの意見でまとまった。

その後、10月にかけ、健康科学専修、国際センター、学長室にて審議頂き、「本学は国際協力、グローバル人材の育成を積極的に進めている。良い機会なので是非進めるように。」との了解を頂き、JICA 大学連携ボランティア派遣事業に参加すべく準備を開始することとなった。

表 1 JICA 大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）の概要

JICA 大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）

国際協力機構（JICA）では、青年海外協力隊員を各国に派遣しているが、今回、短期ボランティアとしてチーム派遣が開始された。プロジェクトの概要は以下のとおり。

◆野球＋文化交流で異文化理解，国際理解を促進する。

- ・中南米の野球普及に貢献する。
- ・2020 年東京オリンピックでは野球・ソフトボールが公開競技として復活する可能性が高く，対象国の出場権獲得へ向けての支援，及び，出場権を得た場合のアテンドを行う。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた国のスポーツ支援政策と合致する。

◆概要

期間：約 1 か月（2 月上旬～3 月上旬） * 2016 年 2 月スタート。

人数：10 名程度（チームプレーとして野球を教えるため，試合ができることが条件）。

費用：交通費，滞在費などすべて JICA 負担。

研修：5 日間。

資格：TOEIC330 点または英検 3 級以上，健康診断で問題がないこと。

対象：野球部員，応募時 20 歳以上（例年 9 月上旬が応募締切）。

安全：青年海外協力隊員（長期 2 年間派遣）が滞在しているところに加わるので，特に問題はない。また，現地 JICA 事務所もあり万全を期している。

スケジュール：9 月応募，10 月面接，11 月研修，海外派遣 2 月上旬～3 月上旬，
報告会 3 月

◆既に協定を結んでいる大学と国

日本体育大学—ブラジル，近畿大学—ペルー，兵庫県立大学—アルゼンチン
（いずれも 1 期 3 年間）

◆協定校となるための条件

- ①野球が強い ②保健体育科教職課程を持っている ③国際協力に力を入れている

(2) 平成 26 年度大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団

2014 年 12 月 19 日（金），『平成 26 年度大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団参加者募集について』が JICA より配信された。概要は表 2 のとおりである。

この調査は，大学関係者を主要な調査団員とし，大学のリソースを活用したスポーツ分野でのボランティア案件の形成を，JICA と大学が共同で行うために企画されたものであり，今回は，中南米に位置し，指導者派遣要請があった国が対象となる。

また、多くの大学が途上国の治安状況を不安視しているという現状を踏まえ、治安情報の収集や JICA の安全対策の紹介を現地で行うことも大きな目的の 1 つである。

表 2 平成 26 年度大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団の概要

平成 26 年度大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団	
1. 調査期間	2015 年 2 月 18 日（水）～3 月 7 日（土）（17 泊 18 日）
2. 調査対象国	コスタリカ，ペルー，エルサルバドル（※ペルーは視察のみ）
3. 調査目的	(1) スポーツ分野における大学連携ボランティア派遣案件の形成 (2) JICA が実施する安全対策に対する大学関係者の理解促進
4. 調査内容	(1) セクター情報の収集（スポーツ施設・教育施設などの現地調査，関係省庁・機関の訪問・情報収集） (2) 上記を踏まえた大学連携ボランティア派遣案件のリストアップ・形成
5. 派遣人数（予定）：計 7 名程度	(1) 大学関係者 各大学から 1～2 名ずつ，計 6 名（2 名の場合は，体育系専攻教員もしくは部活動監督（顧問）1 名，国際協力を担当されている大学職員 1 名を想定） (2) JICA 職員 1 名 ※応募者が多数あった場合は，選考とさせていただきます。
6. 応募要件	以下の全てを満たすことを条件とさせていただきます。 (1) 海外でのスポーツ振興に関心があり，野球部もしくは卓球部を有し，いずれかの競技で大学連携案件を形成いただける大学である（本調査では，コスタリカで野球案件，エルサルバドルで卓球案件と野球案件の形成を想定）。 (2) 2015 年 2 月 6 日に実施予定の事前研修会に参加いただけること。 (3) 帰国後，本調査の内容について，所定のレポートを提出頂くと共に，JICA が実施する帰国報告会に参加の上，ご報告いただけること。なお，帰国報告会は，2015 年 3 月 20 日を予定しています。 (4) 調査全行程に参加いただけること。 (5) 調査団員として参加いただける方が有効な一般旅券を保有していること（残存有効期間が 6 ヶ月以上，且つ未使用査証欄が 1 ページ以上あること）。 (6) その他，帰国後，JICA からの依頼に基づき適宜情報をご発信いただけること。

JICA 大学連携ボランティア派遣事業に参加を希望していた本学は、その前提となる「平成 26 年度大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団」に国際センター課長・長岡篤史氏（以下、長岡課長とする）とスポーツ推進センター長 / 野球部長・宮崎光次（筆者、以下、宮崎とする）が参加すべく、2014 年 12 月 26 日（金）に応募した。

いくつかの大学から応募があったようであるが、JICA 大学連携ボランティア派遣事業協定校となるための条件である、①野球が強い ②保健体育科教職課程を持っている ③国際協力に力を入れている などの観点から審査され、最終的に、東海大学、福岡大学、本学の 3 校が選出され、2015 年 1 月 19 日（月）に、正式に形成調査団参加協力依頼書を受領し、1 月 24 日（土）に長岡課長、宮崎が団員調書を提出し、調査団への参加が決定した。

2 月 6 日（金）13:30～17:00、JICA 本部 109 会議室にて、大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査団事前研修会が開催された。前出の 3 大学から調査団員が出席、①ボランティア事業について ②調査概要について ③大学連携事例紹介 ④調査対象国一般事情 ⑤ JICA の在外における安全管理 ⑥ JICA の在外における健康管理 ⑦案件形成 等について研修を受けた。

（3）中南米での大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）形成調査

期間は、2015 年 2 月 18（水）日～3 月 7 日（土）の 18 日間。視察地は、コスタリカ、ペルー、エルサルバドルの 3 か国。視察団は、長岡課長、宮崎を含め 7 名。3 か国の現地調査を通じて、スポーツ分野の現状把握、安全や治安にかかわる情報収集を行い、スポーツ分野における連携ボランティア派遣の案件形成を行った。

コスタリカには、2 月 19 日（木）～2 月 24 日（火）の 6 日間滞在。コスタリカ JICA 事務所、野球連盟、サントドミンゴ野球協会、スポーツ省、オリンピック／パラリンピック委員会、在コスタリカ日本大使館、野球指導現場等を訪問した。（写真 2、3）

総合的に考えると、各協会、各連盟のスポーツ普及・強化に関する方向性が統一されていないものの、これまでの JICA の取り組みから考え、サントドミンゴ野球協会に派遣される長期隊員を支援する形で、学生を短期ボランティアとして派遣できれば、大きな成果が得られると確信できた。

安全面でも、中南米の中では最も治安が良く、JICA 事務所の安全対策もしっかりしていることが確認できた。また、JICA が提携をしている病院を訪問したが、麻酔室、手術室、集中治療室等、最新の設備が整い、各専門医の体制も充実、日本と同等の医療サービスが受けられることが分かった。宿泊先は、ホームステイ、及び、地方巡回時のホテルであり、移動も専用バスが利用できることから、4 週間の短期ボランティア派遣は十分に可能であると判断した。

ペルーには、2 月 25 日（水）～2 月 27 日（金）の 3 日間滞在。ペルー JICA 事務所、ペルー日系人協会、近畿大学生の野球指導現場等を訪問した。ペルーでは、既に近畿大学

が JICA と連携協定を結び、野球指導をしているため、派遣の可否を決める必要はないが、大学生からのヒアリングで、スペイン語習得と中南米に特化した危機管理セミナーの必要性を感じた。また、大学生の生き生きとした活動を見学し、来年以降、本学の学生も同じような良い経験ができるようにしたいと感じた。

エルサルバドルには、2月27日（金）～3月5日（木）の7日間滞在。エルサルバドル JICA 事務所、野球連盟、スポーツ省、野球場等を訪問した。

野球に関しては、キューバから監督を招聘したり、MLB 監督を短期間招きセミナーを行ったりと、強化に力を入れている。グラウンドも、しっかりと整備されており、宿泊所やバッティングゲージなどの付帯施設も整っていた。

しかし、治安の面では大きな問題があった。ギャングの抗争で1日12名から13名が殺害されている。現地人がほとんどで外国人が狙われるケースは強盗やひったくりが多いとのことであったが心配を拭い得ない。また、サンサルバドル東部の危険地帯を車で視察したが、いたるところにマシンガンやショットガンを持った警察官や警備員がいた。途中立ち寄った警視庁では、去年殉職した警察官は34名で今年は11名と、警備にあたっている警官の死亡率も高いとの話を聞いた。大学として、安全面で不安のある地域に学生を派遣することはできないことから、JICA への申請は行わない方が良いと判断した。

以上より、3カ国の視察から、本学としては JICA に対して、コスタリカへの短期ボランティア派遣を申請することとした。



写真2 コスタリカでの野球指導



写真3 コスタリカ野球連盟、
サントドミンゴ野球協会との協議

(4) 「コスタリカ共和国野球振興支援ボランティア」

2015年3月20日（金）、帰国報告会（プレゼンテーション）が JICA 本部で開催された。先に行った中南米での大学連携ボランティア派遣事業（スポーツ分野）案件形成調査を踏まえ、東海大学、福岡大学、本学が、「JICA 大学連携ボランティア派遣事業」として具体的にどのような取り組みができるかについて、各々30分間のプレゼンテーションを行った。

本学は、「JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業『コスタリカ共和国野球振興支援ボランティア』計画（5年間）」というタイトルで、①事業概要 ②コスタリカにおける野球の現状及び課題 ③活動内容 ④活動上の留意点 について具体的な提案を行った。

(5) JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業覚書署名式

2015年3月20日（金）のプレゼンテーション、及び、これまでの書類選考などを通し、本学が選抜され、JICA 大学連携ボランティア派遣事業を締結した。

内定が、4月上旬に発表され、6月1日（月）駐日コスタリカ大使館訪問を経て、6月9日（火）JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業覚書署名式が本学学長室会議室にて行われた。覚書を交わした事業の概要は、表3のとおりである。

表3 JICA 桜美林大学連携ボランティア派遣事業の概要

大学名	桜美林大学
実施国	コスタリカ
目的	1) JICA が行うボランティア事業に、グローバル人材育成を目指す本学の知見・人材を有効に活用し、コスタリカにおける野球の普及・振興を図る。 2) JICA ボランティア経験を通じた大学のグローバル人材育成及び国際協力分野における人材育成を図る。 3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた国際貢献策「Sport for Tomorrow」の具体的な行動として実施し、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの拡大を図る。
実施期間	2016年2月上旬～2020年3月上旬 (各年2月上旬～3月上旬の約4週間)
実施機関 (配属先)	コスタリカ野球連盟 サントドミンゴ野球協会
期待される成果	1) 野球を通じたコスタリカ共和国の青少年の健全な育成 2) コスタリカの野球競技力向上 3) コスタリカにおける野球競技者の底辺拡大 4) 活動を通じた学生等の育成 5) 学生等の異文化理解の促進、及び、グローバル人材の育成 6) スポーツとオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの拡大
活動	1) 選手への技術指導 2) 選手へのルール、マナー等の指導（協調性、忍耐力等を身につけ、青少年の心身の健全育成を目指す） 3) 普及を目的とした青少年を対象とする野球教室 4) 試合によるデモンストレーション 5) 試合・大会の運営支援（審判、グラウンドキーパー等を含む） 6) 清掃等の活動 7) 指導者への指導（技術、指導法） 8) コスタリカ代表チームへの支援 9) 体育専攻大学生への指導（技術、指導法）
投入	短期ボランティア 各年10名～15名程度×5年 ※活動は、一般公募の長期ボランティア隊員と連携して行う。
大学の方針・戦略等における本案件の位置付け	桜美林大学の建学の精神は「キリスト教精神に基づく国際人の育成」であり、「学而事人（がくじじん）」（学びて人に仕える）を実践している。大学連携ボランティア派遣事業は、これを体現する機会として位置付けられる。

当該国における他事業の状況	一般公募の野球長期ボランティア隊員が活動中。大学連携事業は同ボランティア隊員と連携して活動を行う予定。
大学の優位性	首都大学野球連盟 1 部リーグ上位の野球技術レベル 150 名を超える野球部員数
大学のサポート体制	※大学側の窓口となるコンタクトパーソンも記載。 1. 学長をトップとする全学体制での実施体制（特にボランティア人材の確保）。 2. 派遣前の野球技術指導法の習得機会の提供 3. TOEIC 受験対策講座・スペイン語会話講座の設置 （大学担当者：桜美林大学 学生センター 国際学生支援課長 長岡篤史）
備考	

4. 派遣学生の選考

2015 年 4 月上旬、コスタリカでの短期ボランティア活動が行えることが内定したのを受け、野球部員に対し、JICA 職員による説明会が 4 月 7 日（火）9：00～10：30、明々館 A 201 教室で行われた。

その後、5 月 27 日（水）18：00～19：00、明々館 A 204 教室において、参加希望者を対象に詳細な説明が行われ、参加希望確認のアンケート調査を実施した。

この段階での参加希望者は、22 名であったが、JICA の派遣基準（年齢等）に照らし合わせ、条件を満たす 15 名を出願予定者とした。

JICA の短期ボランティア派遣基準には、TOEIC（TOEIC-IP 含む）330 点以上、または、英検 3 級以上の語学力（英語）が課せられており、応募締切の 9 月 3 日（木）までにこれをクリアしなければならない。今回、出願予定者の中には、これらのテストを受験した経験のない学生が 12 名含まれていた。6 月 9 日（火）の覚書署名式後に受験できる TOEIC-IP テストは 7 月 3 日（金）と 7 月 25 日（土）の 2 回しかなく、TOEIC、英検については受験機会がなかった。

そこで、英語が堪能な学生が講師となり、学生同士で TOEIC 対策講座を 4 日間行い、7 名が基準をクリアした。これにより、すでに基準をクリアしていた 3 名を加え、10 名が出願することとなった。

出願にあたり JICA より、書類選考、面接とも審査は厳しく、大学連携ボランティア派遣事業といえども、一般公募の基準と同様であり、不合格になった事例が過去にあるので、大学で対策講座を設けるなど準備を怠らないで欲しいとの連絡があった。

応募書類は多岐にわたっており、記入する分量も多い。10 名の学生は、お互いに記入漏れがないかなどチェックをし合い、不備がないことを確認、9 月 2 日（火）に出願した。

9 月下旬には、JICA より、10 名全員が 1 次選考（書類審査）に合格し、2 次選考（面接）に進めるとの連絡があった。

そこで、9 月 24（木）19：30～20：30、明々館 A204 教室において面接試験対策講

座を実施、10月5日（月）～9日（金）には面接試験対策個別指導を行った。

5. コスタリカの野球事情

(1) 野球事情

野球競技人口は700～1000人、国内リーグ数は成人4リーグ、青少年4リーグである。競技レベルは中南米6カ国中5～6位。球場数は14を数える。

JICA野球支援は1974年から開始、2000年から2008年の9年間はストップしていたが2009年より再開。長期ボランティア派遣実績は15名。赴任中の加藤直樹隊員（サントドミンゴ在住、任期は2013年9月～2015年11月）を含め、長年の活動が実り、サントドミンゴ市は野球文化が強く定着した地域である。サントドミンゴ野球協会は、野球というスポーツを通して、「協調性・忍耐力を身に付け、子ども達が心身ともに健全に成長することを目指し、社会貢献をする」ことを目的に長年活動をしており、野球教室が実施され、成人チームも存在するなど、地域の協力体制も強い。同協会が中心となって、大会や講習会を開催しており、国際大会へも積極的に参加している。しかし、運営資金が不足し、用具不足、球場施設の整備不足は否めず、日本や他国からの支援を受けて成り立っている。

一方、地方に目を向けると、指導者、用具（輸入品のみ）の不足は更に深刻であり、野球専用球場はなく、サッカーグラウンドを借りて練習をしているなど、都市部と地方との格差は否めない。

このような状況下、コスタリカ野球連盟は、普及対象地域を拡大するために青少年を対象にした野球教室の開催や地域ごとに行う対抗戦等を企画していく予定であり、協力隊員の重要性が増々問われることになる。

加えて、コスタリカ代表チームの強化、国際大会出場に向けたチーム作り、連盟の組織運営の在り方など課題は多く残されており、次世代を担う競技者、指導者の育成は不可欠である。そのためにも、今回のボランティアは重要な活動と言える。

(2) 長期派遣隊員・加藤氏へのインタビュー

JICAより野球指導の長期ボランティアとして派遣されている加藤隊員から話を伺った。加藤隊員は主にサントドミンゴ市の野球チーム、及び、市内の小学校授業で野球指導を行っている。加えて、他県にある学校へも巡回し、日本式野球の普及に努めている。加藤隊員へのインタビューの中で以下のことが確認できた。

- ① コスタリカでは、野球はメジャースポーツではなく、野球の道具が手に入りにくい。
- ② コスタリカとニカラグアの国境付近に住む子ども達が上手である（ニカラグアは野球が盛んなため）。
- ③ サントドミンゴでは、カテゴリーという呼ばれる年齢別のチームに分かれており、青

少年は、5歳から7歳、8歳から10歳、11歳から12歳、13歳から16歳の4つのチームに分かれて練習や試合を行っている。その理由は、アメリカのリトルリーグのルールを採用しているということ、そして、国際大会に参加することを目標の1つとしているためである。しかし、他の地域では十分な人数の子どもや指導者がいないため、年齢に関係なくチームを作っているところもある。

- ④ 規律を重視した日本式野球を伝えたいと考えているし、協会からもそれを期待されている。しかし、日本の規律については、結果的に理解してもらえたら素晴らしいと思うが、集中力が続かない、飽きやすいという子ども達の性格を考え、まずはゲーム方式を取り入れることで、子ども達が、より授業あるいはゲームに集中して取り組むことができ、限られた時間の中でより多くの学びがあるようにと工夫している。
- ⑤ 地域によっては、多くの学校で体育教師が配置、あるいは、体育の授業がカリキュラムに組み込まれている。また、インターネットやケーブルテレビの影響で、細かいルールはわからなくても野球がどういうものかというイメージを持っている子どもも大勢いる。しかし、コスタリカ全体ではまだまだ体育の授業の普及率は低く（40%程度）、体育の授業で技術やルールを細かく教えるというところまでは実施されていない。
- ⑥ 野球指導員、及び、野球場（練習場所）が不足しており、強化・普及が難しい。具体的には、学校で野球の授業を実施し、興味を持って続けてみたいという子どもがいたときに、必ずしも学校や家の近くに指導できる人材や場所がないというのが現状である。加藤隊員は、ジャイアンツアカデミー（定期的に行っている子ども達を対象とした野球教室）で使用している子ども向け野球教本をスペイン語に翻訳、「ホップ ステップ ジャイアンツ メソッド（スペイン語版）」を作成。コスタリカ人指導員の育成にも努めている。
- ⑦ 道具を大切にするという概念がない。用具を並べて置くなど整理整頓するという感覚に乏しく、ボールを蹴ることやバット等を粗雑に扱うなどが見受けられる。
野球は高額な用具を必要とするスポーツであり、子ども達の多くは、グローブやバット等の用具を持っておらず、日本から寄贈された野球用具か、パナマやニカラグアから購入した野球用具を貸し出して練習や試合を行っている。また、野球場は内外野ともにデコボコでグラウンド状況は良くない。バッティングゲージも破損しており、照明も不十分で、決して良い環境とは言えない。

6. コスタリカでの活動に向けての準備と今後のスケジュール

（1）野球用具の寄贈

現在、コスタリカでの活動に向けて準備を進めている。コスタリカでは、野球用具が不足している。そこで、2015年8月12日（水）にファンケル本部を訪問し、道具の寄贈について話し合いを持った。

ファンケルでは、「ファンケル キッズベースボール チャレンジ (FKBC)」と題して、各地で開催される野球教室を通じて使用しなくなった野球用具を回収。回収した野球用具は用具不足に悩む国や地域の子ども達に寄贈している。

本学、及び、野球部で寄贈できる用具に加え、ファンケルより提供いただいた用具をコスタリカに届けたいと思う。

また、中南米では一部軟式ボールが使用されている。コスタリカでは、12歳以下のカテゴリーで、軟式ボールが採用されており、今回、公益財団法人 全日本軟式野球連盟に協力いただき、軟式ボールをコスタリカに届けることにしている。

さらに、野球用具を寄贈すると共に、用具を大切に扱うこと、手入れをすることも併せて伝えて行きたい。

(2) 野球指導者との面談

2015年8月27日(木) 本学野球場に、コスタリカ人ネット氏(26歳)を招き、派遣予定学生と話し合いを持った。ネット氏は、コスタリカ・ナショナル大学(国立大学)でスポーツ心理学を専攻、コスタリカ代表チームの一員として活躍、卒業後は、教員をしていた。将来、コスタリカ代表チームの監督を目指しているネット氏は、3月から9月までの半年間、日本体育大学でコーチ研修を行っていた。ネット氏は、2020年東京オリンピックに向けた、コスタリカ代表チームの強化に関して、中心的な役割を果たす人物であり、今回の野球指導ボランティアにおいても大いにサポートいただけたと考えている。ネット氏からコスタリカの野球事情、ボランティア活動で学生に望むことなどを聞くことが出来、学生にとって非常に有意義な時間であった。

また、9月23日(水) 本学野球場にて、JICA 金子真輝氏と面談した。金子氏は、9月28日(月)に日本を出発、2年間、コスタリカにおいて、青年海外協力隊長期ボランティアとして野球指導を行う。2016年2月及び2017年2月には、確実に本学学生がお世話になる方である。金子氏の野球指導に対する思いや国際貢献に関する考え方は、学生に強い印象を与え、コスタリカにおける活動に益々モチベーションが上がったものと確信できた。

(3) JICA による事前研修

2015年11月30日(月)～12月4日(金)の5日間、JICAによる事前研修会が実施された。この中では、①ボランティア事業 ②コスタリカにおける活動内容 ③コスタリカの一般事情 ④在外における安全管理 ⑤在外における健康管理 ⑥スペイン語講座などが行われた。

(4) 本学における事前研修

派遣前に、本学として以下の研修を行う予定である。

① 野球研修：

派遣される学生は、野球部に所属し、一定以上の野球のスキルを身につけているが、派遣される人数が10名程度と限定されるため、試合を行う際には、普段とは違うポジションでプレーすることが考えられる。よって、全員が2つ以上のポジションをこなせるよう準備する。さらに、サインプレー、連係プレー、牽制プレーなどのチームプレーが上手に出来るように十分な練習が必要となる。

また、指導に関しては、経験が豊富なわけではないので、少しでも多くの機会を作り、実践的に学習して行く。特に、少年野球（ジュニア年代）の指導は、発育発達を考慮するなど難しい点があるので、十分に時間を掛けるとともに、読売ジャイアンツに協力いただき、ジャイアンツアカデミーの視察や講義を受けるなど研修を積むことにしている。

② スペイン語研修：

コスタリカはスペイン語圏である。英語は多くの学生が中学校以降、学習しており、大学においても必修科目として履修していて、挨拶程度は皆できるが、スペイン語はほとんどの学生が初めて出会う。現地で、少しでもコミュニケーションが取れるよう、挨拶、ちょっとした日常会話などができるよう、基盤教育院の先生方の協力により、派遣メンバーだけを集め、スペイン語の特別講座を実施する。

また、野球専門用語、及び、指導に必要な用語も「ホップ ステップ ジャイアンツ メソッド（スペイン語版）」をテキストとし、習得させたいと考えている。

③ JICA、国際協力、ボランティア活動に関する研修：

基盤教育院の先生方の協力により、派遣メンバーだけを集め、JICA、国際協力、ボランティア活動に関する特別講座を実施する。

④ 安全管理、健康管理に関する研修：

長岡課長はじめ、国際センターの方々の協力により、派遣メンバーだけを集め、安全管理、健康管理に関する特別講座を実施する。

(5) コスタリカでの活動

2016年2月4日（木）～2016年3月4日（金）、コスタリカにおいて野球指導を行う。現在の予定は表4のとおりである。

表4 コスタリカでの野球指導予定（2016年2月4日～3月4日）

	行動予定	活 動	場 所
2/4 木	午前	移動 羽田 ⇒ LA ⇒ コスタリカ	
	午後	各種オリエンテーション	JICA 事務所
	夜	—	—
2/5 金	午前	各種オリエンテーション	JICA 事務所
	午後	日本大使館表敬訪問	日本大使館
	夜	大使公邸夕食会	大使公邸
2/6 土	午前	野球パフォーマンステスト	サントドミンゴ球場
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—
2/7 日	午前	—	—
	午後	移動 サンホセ ⇒ ラ・クルス	
	夜	—	—

	行動予定	活 動	場 所
2/8 月	午前	野球授業	ラ・クルス 小学校 A
	午後	野球授業	ラ・クルス 小学校 B
	夜	—	—
2/9 火	午前	野球授業	ラ・クルス 小学校 C
	午後	野球授業	ラ・クルス 小学校 D
	夜	移動 ラ・クルス ⇒ サンカルロス	
2/10 水	午前	野球授業	サンカルロス 小学校 A
	午後	野球授業	サンカルロス 小学校 B
	夜	—	—
2/11 木	午前	移動 サンカルロス ⇒ ラフォルトゥーナ	
	午後	移動 ラフォルトゥーナ ⇒ サントドミンゴ	
	夜	—	—
2/12 金	午前	—	—
	午後	—	—
	夜	—	—
2/13 土	午前	野球指導（12歳以下対象）	サントドミンゴ球場
	午後	野球指導（13歳以上対象）	サントドミンゴ球場
	夜	サントドミンゴ青年選抜と親善試合	サントドミンゴ球場
2/14 日	午前	サントドミンゴ社会人選抜と親善試合	サントドミンゴ球場
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—

	行動予定	活 動	場 所
2/15 月	午前	野球授業	サントドミンゴ 小学校 A
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	野球指導	サントドミンゴ球場
2/16 火	午前	野球講義	UNA ラグニージャ
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—
2/17 水	午前	野球授業	サントドミンゴ 小学校 A
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	野球指導	サントドミンゴ球場
2/18 木	午前	野球講義	UNA ラグニージャ
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—
2/19 金	午前	—	—
	午後	—	—
	夜	—	—
2/20 土	午前	野球指導 (12 歳以下対象)	サンホセ サバナ球場
	午後	サンホセ青年選抜と親善試合	サンホセ エスカレ球場
	夜	—	—
2/21 日	午前	サンホセ社会人選抜と親善試合	サンホセ エスカレ球場
	午後	練習	サンホセ エスカレ球場
	夜	—	—

	行動予定	活 動	場 所
2/22 月	午前	野球授業	サントドミンゴ 小学校 B
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	野球指導	サントドミンゴ球場
2/23 火	午前	野球講義	UNA ラグニージャ
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—
2/24 水	午前	野球授業	サントドミンゴ 小学校 B
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	野球指導	サントドミンゴ球場
2/25 木	午前	野球講義	UNA ラグニージャ
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	—	—
2/26 金	午前	—	—
	午後	—	—
	夜	—	—
2/27 土	午前	野球指導 (12 歳以下対象)	サンホセ デサンバラド
	午後	—	—
	夜	—	—
2/28 日	午前	—	—
	午後	—	—
	夜	—	—

	行動予定	活 動	場 所
2/29 月	午前	野球授業	サントドミンゴ 小学校 C
	午後	練習	サントドミンゴ球場
	夜	野球パフォーマンステスト	サントドミンゴ球場
3/1 火	午前	—	—
	午後	報告会	日本大使館
	夜	—	—
3/2 水		移動 コスタリカ ⇒ アトランタ	
3/3 木		移動 アトランタ ⇒ 成田	
3/4 金		移動 アトランタ ⇒ 成田	

(6) 帰国報告会

2016 年 3 月 5 日（土）、JICA 本部にて帰国報告会が開催される。コスタリカでの活動について、派遣された学生がプレゼンテーションを行う予定である。

7. おわりに

スポーツを通じた国際交流、スポーツによるグローバル人材の育成が本学でも本格的に始まる。大学在学中に海外経験を持つとどのようなメリットがあるか。20 代前半で海外に出ると、いろいろなことが刺激になり、様々な経験ができる。その中でも特に、語学の上達は大いと感じる。コスタリカで会った JICA 野球指導隊員は、半年から 1 年で、大勢の前で流暢なスペイン語でプレゼンテーションができるようになっていた。1 ヶ月という短い期間ではあるが、コスタリカで過ごすことは、語学学習のためにも大きなアドバンテージになるであろう。

また、この短期ボランティアをきっかけに、長期ボランティア隊員として赴任すれば、外国語が習得できるだけでなく、就職についてもいくつかのメリットがある。例えば、神奈川県、相模原市、横浜市、川崎市などの本学近隣地区を含め、25 の県、政令指定都市で、2 年間の海外派遣を経験すると、教員採用試験の一次試験において一般教養・教職専門試験が免除になるなどの特別措置が受けられる（2014 年度）。市役所職員などの自治体職員採用についても、特別採用枠を設けたり、経験が受験資格となる選考が確保されたりしている地域が多く存在する。受験枠や特別措置のある大学院も 15 大学を数える（2014 年度）。これらは学生にとって魅力的であろう。

さらに、野球というスポーツを通じて国際的な視野を広げられる。海外から見ると、改めて日本野球の技術力の高さ、ルール・マナーを堅持する姿勢、チームワークを大切にする協調性などが理解できるのではないか。特に、野球があまり盛んでない地域での普及活

動は、人を育てることの難しさや大切さ、組織作りの難しさや大切さを気づかせてくれるはずだ。

そして、異文化の中に入り、試行錯誤しながら、多くの人と時間を過ごすことは、互いの価値観や考えを大切にしようとする、共生の心を育んでくれるであろう。「学而事人（かくじじん）」、学びて人に仕える、これまでに学んだことをコスタリカの人々のために活かして欲しいと強く願っている。

引用・参考文献

- 1) 宮崎光次,「スポーツからグローバル人材の育成」 OBIRINER37 号, pp27 (2015)
- 2) 独立行政法人 国際協力機構,「JICA PROFILE」, (2014)
- 3) 独立行政法人 国際協力機構,「世界に笑顔をひろげるシゴト」, (2014)
- 4) 読売ジャイアンツ,「ホップ ステップ ジャイアンツ!」中央公論新社, (2011)
- 5) 外務省,「Sport for Tomorrow プログラム」,
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000046922.pdf>, (2014)
- 6) 外務省,「Sport for Tomorrow (SFT)」プログラム概要 (主な実施例含む)
http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page22_001221.html, (2015)
- 7) 外務省,「スポーツ外交強化に関する有識者懇談会」最終報告書,
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000067294.pdf>, (2015)